へ13
3013
24

へ13
3013
24
特

第九四編上冊

倩女幽魂
源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

千歳屋壽梓

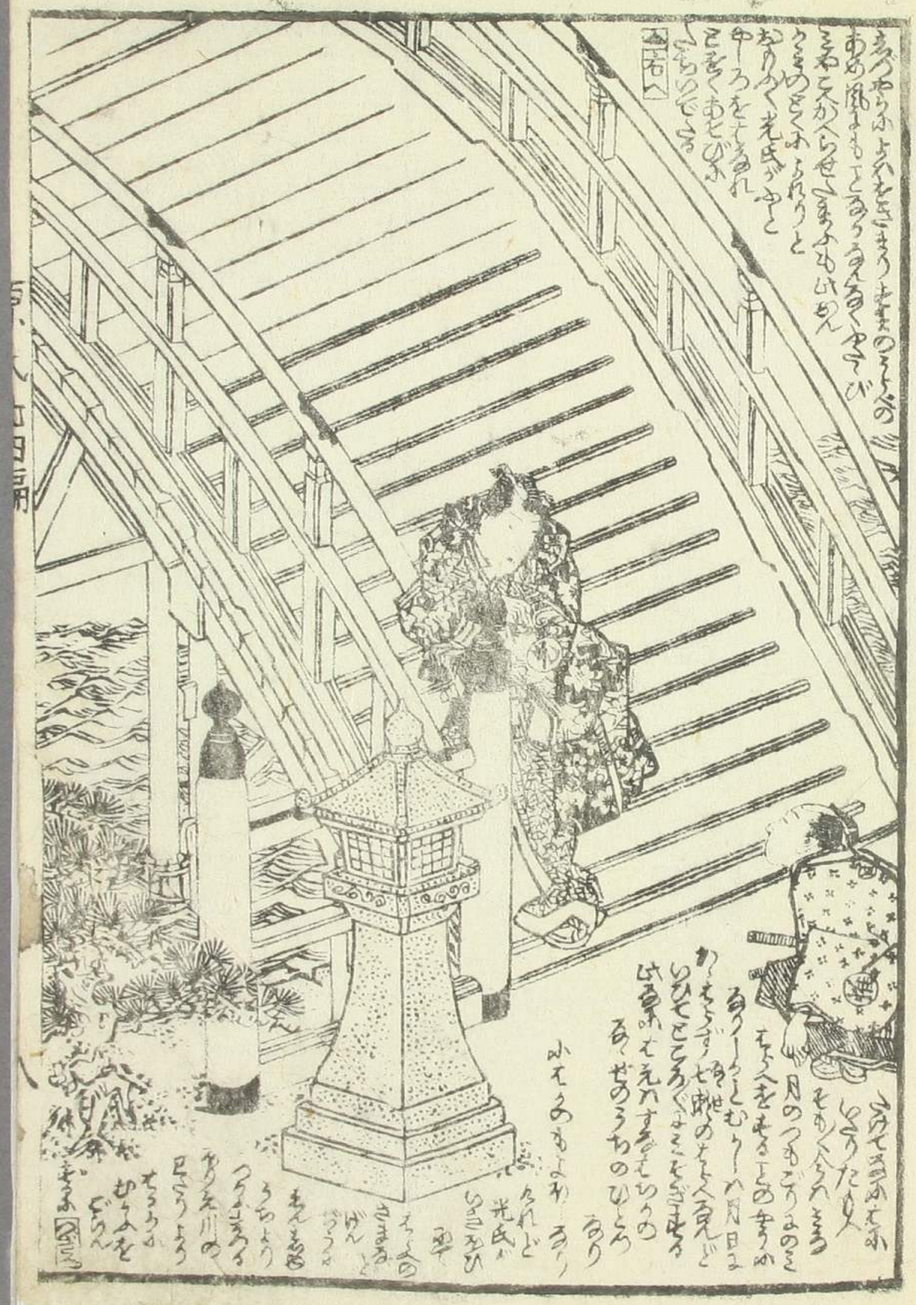
是第九四編を歌舞妓の根本ゐ譬ちゝ
ゐて他を物住吉の社の景ゑ掛り一面の
明石ゑ連ゝるゝ宮参り岸中を浪の音ゑく陸へ初知入
行列と遠見ゑ袖もぬゝる田義の為や雑彼ゑ道具
かゝりて口説の詰を六條田甫乃級住隣家の琴の調物
幕ひらくゝ揺の縁語景を紅葉ゑ物ゐ
かゝゝゝ思躍落の移ゑ田舎歌関屋をちゝと二回へさゝ
帯の霧所を聖筵ゑかゝる世話場を轉じく時代蒔繪の
東山大級素袍の諸士の大詰いづれも又
ゝ紙つゝゝゝ戻り関屋のす名ハ後日ゑ渉しゝ

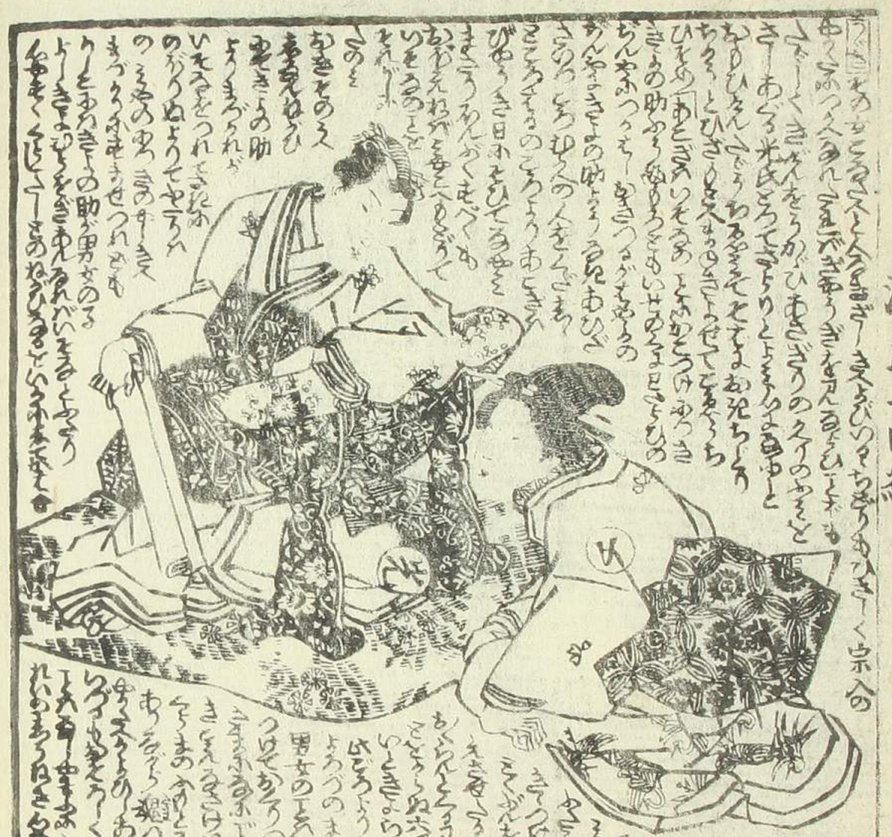
天保丁酉解凍　柳亭種彦記

日明の澪標の續き
ゐて他を物住吉の社の景ゑ掛り一面の
松並木其紙ゐを

あこぎ むまの
阿古木の女
いそる
磯菜
光氏

きよ
喜代之助の
くま
妻
ふくぎぬ
空衣
重坂の関や
いろなら せ兄るれば
あげき 歌の





國貞画
種彦作

東都 志水園家邸蔵版

俳諧 今人附合集 全四冊
新開板

元天保元年の古今人の附合五百まきを所々の歳時の添り一瞬ゝ見るべしもの

俳諧 今人歳句集 全二冊
新写板

天保設立のかくの海内宗匠方の歳句七千餘篇を四季ゝ部類分類して当時流行一瞬ゝ景一物公儀例ゝ かやまむる役利の事あり

俳諧 芳艸集 全二冊

田舎源氏文集おかひ 上仕立 種彦序書
なさうに入 貞秀画図
小絵ごろし
昔吐 火桜ゆかりの 全二冊 昔吐 きつねこん 全二冊
菜畑ののろは 全二冊 昔吐 浦島爺 全三冊

俳諧 今四歌仙 全一冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

高尾
豆腐屋
光四編下

為朝の源氏

第北四編 下冊

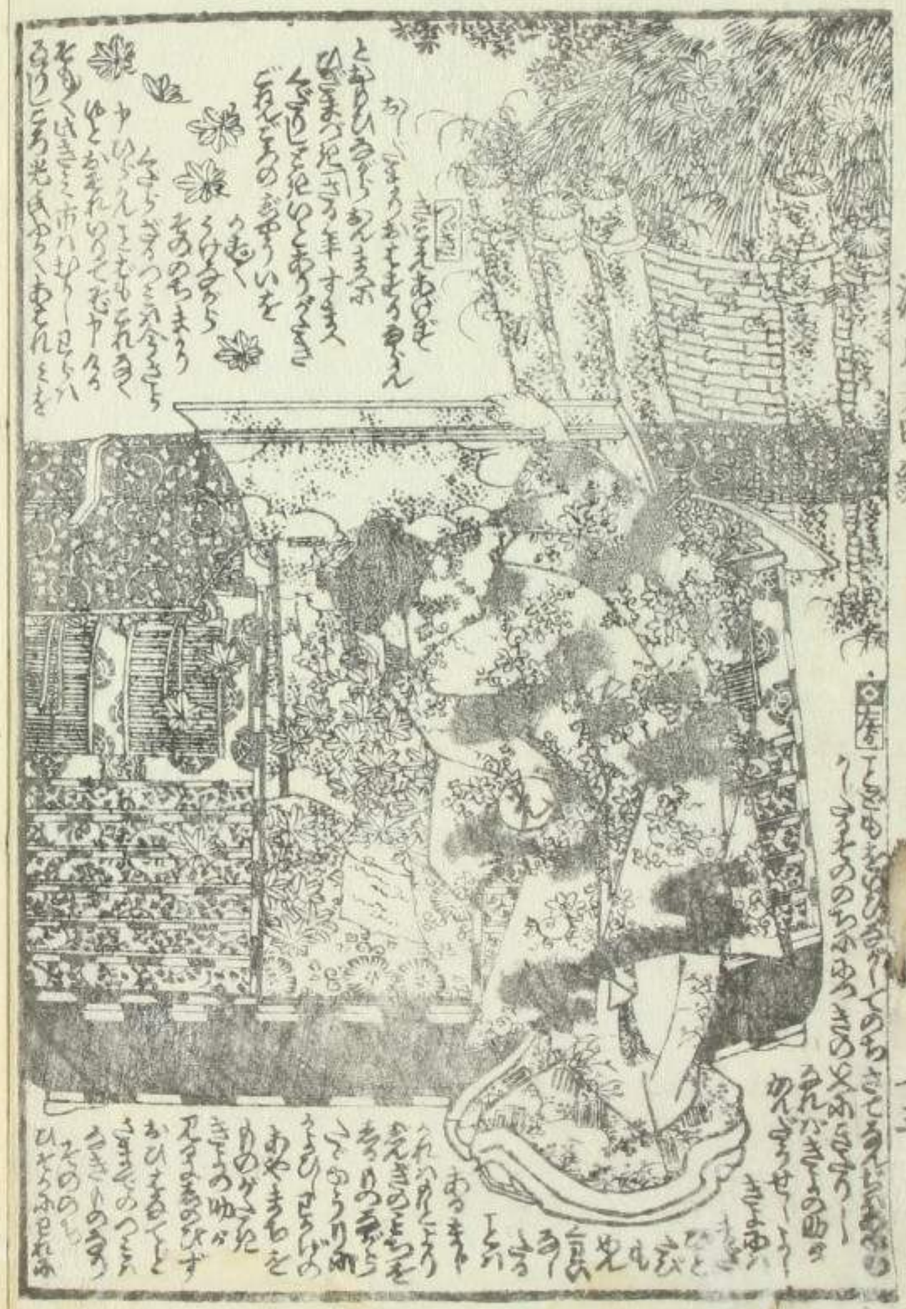
種彦作

國貞画

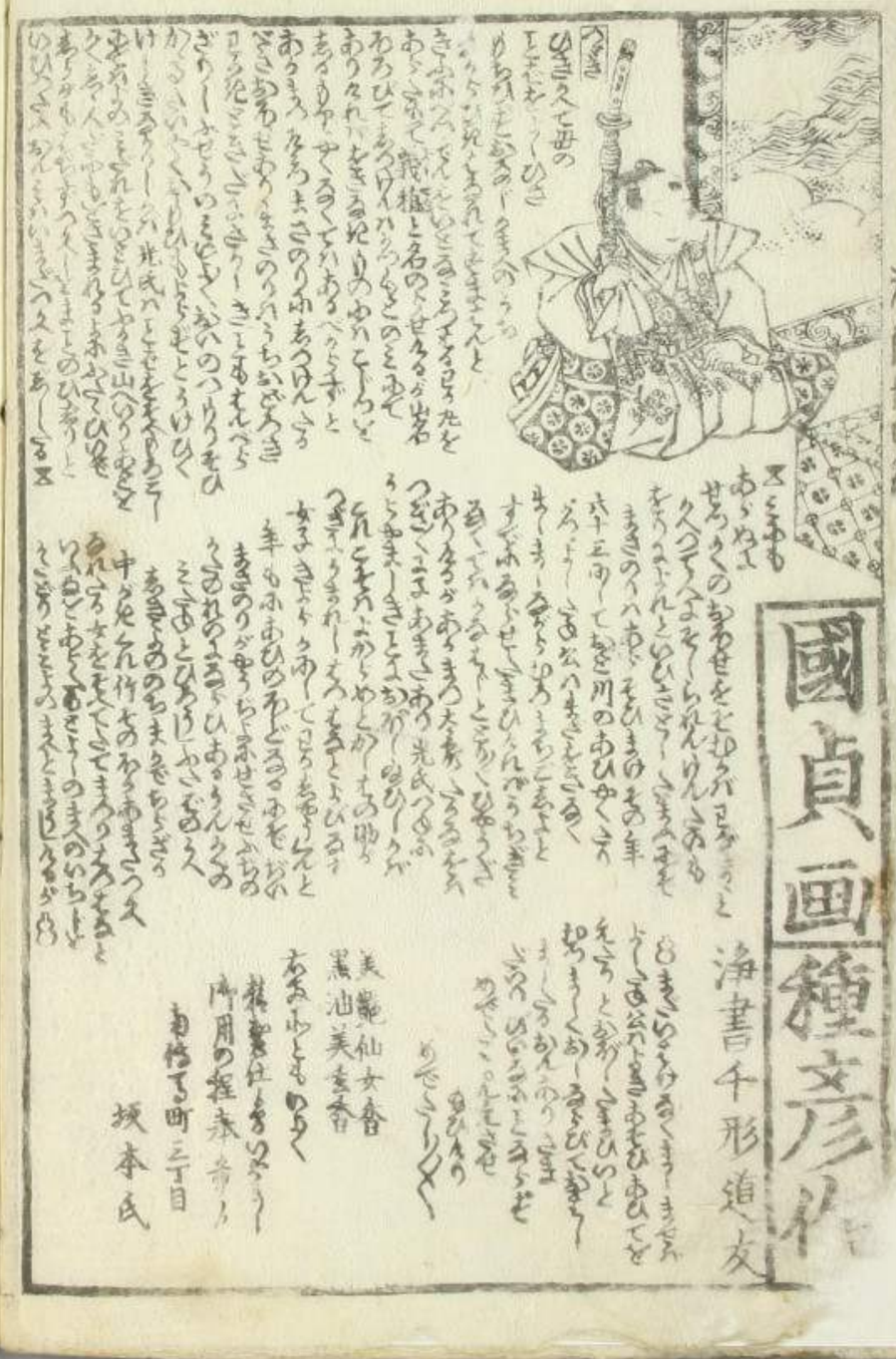
関屋

仙崔堂壽梓

かくさき洞とや絶妙
四くとくとせさとめ
清水と　人をまるらん



源氏大日録



天保十一庚子初春新彫

偐紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

巻末一三十二編より三十五編まで興板お願ひ仕奉候

百人一首雅講釋

仙東京山作
全八冊
歌川國虎画

楠代記

烏有山人作
全五冊
歌川國芳画

鴛鴦物語

山東京山作
全四冊
歌川國貞画

森羅万象心意氣

柳亭徳升作
後編全四冊
歌川國芳画

國字水滸傳

笠亭仙果譯
第十七編
歌川國芳画

藻塩草須磨書替

全四冊
五雲亭貞秀画

美艷仙女香
黒油美玄香
東仲通り町三丁目西側
坂本氏製

四十八銅

書物錦繪
團扇地紙
問屋
江戸通油町
鶴屋喜右衛門